

## 市漁協新組合長に嶋氏

## 混乱収束、再建を期待

小樽市漁協の新組合長に嶋秀樹氏(54)が正式に決まり、新たな指導体制が5日、スタートした。昨春から決算議案の否決や赤字拡大、役員総辞職などの混乱が続いており、組合員からは再建を強く望む切実な声が上がっている。

(志村直)

全役員10人の辞職を受けて、道工大卒業後に実家の漁業を継ぎ、昨年5月までの3年間、漁業者でつくる組織の忍路区長を務めた後、同月5日の理事会で、理事8人による互選の結果、新組合長に嶋氏を全会一致で選出した。

常勤の新専務には、ひやま漁協(檜山管内乙部町)元専務の新川正己氏(64)が就任した。

嶋氏は市内忍路出身

で、道工大卒業後に実家の漁業を継ぎ、昨年5月までの3年間、漁業者でつくる組織の忍路区長を務めた後、同月5日の理事会で、理事8人による互選の結果、新組合長に嶋氏を全会一致で選出した。



「漁業者との意思疎通が大切」と話す嶋組合長

の赤字削減に貢献した。連が水面下の交渉を続実績が評価され、道漁けてきたという。

新体制移行について「定量化してほしい」と進めるような、将来を望む。50代のある組合員は「中長期計画を早く見据えた前向きな運営は「小樽特産のシャコを推している。コブランド化を推している。」

## 「漁業者と意思疎通」

「問一答」

多額の累積赤字を抱える小樽市漁協の新組合長に就任した嶋秀樹氏に、再建へのかじ取りなどについて、考えを聞いた。

——2013年決算で累積5億円近い赤字が見込まれています。

「まずは何が現状の問題なのか、組合職員、漁業者たちからしっかりと意見を聞きます。再建は、場合によって痛みを伴うこともありますが、結果として何を考えて、どう立て直すのか、情報を開示し、徹底的に説明していくつもりです。これまでのようにコミュニケーションが不足してしまつと、さらなる混乱を招きます」

——課題の一つに、シャコなどのブランド化を求める組合員との温度差があるのでは。

「ブランド化は理想です。ただ、大きさや鮮度などをきめ細かく分類しなければならず、容易ではありません。アドバランを掲げても、結局はブランドを傷つける結果になる可能性もある。組合だけで事業を進めることはできず、漁業者の話聞きながら決めていきます」

——昨年の小樽しゃこ祭の運営から、市漁協が撤退しました。今年はどうしますか。

「漁業者たちが、運営に参加したいというのであれば、その方向で検討します」